

令和4年度 川越市立図書館 主要事業報告

実施館	事業名	事業概要	実施状況	課題、見直し点等	その他
全館	市制施行100周年記念事業	川越市民の日(12月1日)に、主に小中学生を対象とした川越市市制施行100周年記念イベントを開催した。	川越市の図書館4館において、それぞれ特色のある記念事業を実施した。 ・「トショカンナゾトキビンゴ」(全館139名) ・「としょかんナゾトキツアー」などの図書館見学及び体験事業(全館55名)など	準備に時間を要する事業が多く、担当する職員の負担も大きかったが、盛大に記念事業を実施することができた。	
全館	資料整備(蔵書冊数)	基本図書、新刊図書等の資料を購入し、蔵書の充実を図り、市民等の利用に供する。 令和4年度決算額は37,354,399円。	令和4年度末で、蔵書総数が882,405冊(新聞、雑誌は除く)となり、その内視聴覚資料が35,255点である。	資料の所蔵スペースが逼迫しつつあるため、不要になった資料の除籍を進める必要がある。	
全館	学級訪問、学級招待	小学1年生及び3年生を対象に簡単な図書館の利用指導・ブックトーク等、本を紹介しながら読書の動機づけを行った。	市立小学校32校へ学級訪問、小学校2校へ学級招待を行った。	ブックトークを行うことができる職員の養成に時間を要する。	
全館	ブックスタート	4か月児健診の会場において保護者と赤ちゃんと一緒に絵本を楽しむ大切さを伝えるため絵本などを配布し子育て支援活動を行った。本市では平成15年度から実施している。	4か月児健診受診者2,093名に配布した。令和4年10月から対面での説明を再開した。	4か月児健診未受診者への周知が難しい。	
全館	雑誌カバー広告事業	購入雑誌の最新号に掛けるカバー及び雑誌を配架する書架へ企業・団体の広告を掲示する。図書館資料の充実を図るため、企業・団体からの広告掲載料は資料購入費に充てた。 1館1誌あたり1か月1,000円。	6事業所から29誌に対して342,000円の広告掲載料を受領した。	雑誌カバー広告事業に参加する企業・団体を増やすため、周知を図る。	
全館	デジタルアーカイブの公開	市立図書館が所蔵する貴重資料などを、図書館ホームページ上で自由に閲覧できるようにするため、デジタル化して公開する。	4点追加し、現在20点のコンテンツを公開した。閲覧回数は3,234回だった。	今後デジタルアーカイブのコンテンツ数を増やす場合の対応に備えて、図書館システム更新による改善に取り組みたい。現在職員のデジタル撮影により、デジタル化を行っているため、撮影技術や著作権処理などの知識の継承が必要である。	令和7年度末までに30点をデジタル化し、公開することを目標としている。
中央	郷土資料解題講座	山野清二郎氏を講師に迎え、川越の地誌である『多濃武の雁(たのむのかり)』を教材に講座を実施した。	10月1日に講座を実施し、43名参加した。(50人定員)	令和5年度より100名定員とするため、参加者の増加が課題である。	
中央	児童向け事業	児童向けの各種おはなし会を実施し、読み聞かせやパネルシアターなどを行うことで絵本やお話の楽しさを伝える。	児童向けの各種おはなし会について、計89回実施することができた。延べ参加者は818名だった。	新型コロナウイルス感染症の影響で一旦減少した参加者の増加を目指す。	
中央	電子書籍サービスの充実	電子書籍サービスの充実を図った。	新型コロナウイルス感染症対応地方創生交付金を活用して2,210点購入した。令和4年度末の利用可能コンテンツ数は7,767タイトルとなった。	利用者のニーズに合わせた電子書籍コンテンツの購入を図る。	
西	夏休み子ども点字教室	伊勢原公民館の登録グループ「伊勢原点訳クラブ」協力のもと、児童に対して図書館の障害者サービスの理解を深めるとともに点字の普及を目指した。	参加者は11名で、当該講座の認知度も定着してきた感がある。参加者はとても熱心で、点字への関心の高さがうかがえた。	引き続き図書館の障害者サービスの理解を深めるとともに点字の普及を目指す。	
西	西図書館開館20周年記念事業	開館20周年記念事業として、「西図書館開館20周年記念展示」、「西図書館・伊勢原公民館20周年クイズラリー」、「本棚から我がまちのお宝発見」の3事業を開催した。	「西図書館開館20周年記念展示」は年度当初の4月に行い、「西図書館・伊勢原公民館20周年クイズラリー」は夏休み期間中に行った。「本棚から我がまちのお宝発見」を2月に開催したことで、年間を通して利用者に楽しんでいただけたのではないかと考えられる。	講座については、次年度も開催を要望されたが、継続的に開催するには、図書館の郷土資料を熟知する等、経験を積んだ職員が必要である。	
西	としょかん福袋	当イベントを夏休みとお正月の年2回行う事で、利用促進と福袋を開ける楽しみを感じてもらおう。 3連休となる3日間で開催し、テーマごとに3冊選んで1セットとして貸出をした。2回で一般31袋・児童126袋計157袋、471冊。	毎回好評で、用意した資料はほぼ貸出された。 市のツイッター等で福袋を宣伝したところ、それを見たという利用者が来館してくれた。常連の利用者だけでなく、新規の利用者が興味を持って来館された事は事業に一定の効果があったと思われる。	利用が一過性でなく、継続して来館してもらえるよう、資料の選書・展示等にも一層力を入れる。	
東口	川越駅東口図書館開館20周年記念事業	開館20周年記念事業として、「あなたのおすすめの一冊を教えてください」、「図書館で謎解き・名探偵は君だ!」、「私の本棚へようこそ」の3事業を開催した。	全て新規の事業だったが、どの事業も好評だった。特に謎解きイベントは夏休み中に行ったこともあり、156名の利用者が参加し、参加者からは「楽しかった」「達成感があった」という感想を聞くことができた。また、「私の本棚へようこそ」は高等学校との連携事業は初めてだったが、6校の参加があり、展示した本の貸出も多かった。	特に好評だった謎解きイベントは継続していきたい。高等学校との連携事業は川越市内の高等学校に限定しているが、川越市外の高等学校からも参加の要望があり、検討する必要がある。	
東口	児童向け事業	年齢対象やテーマ別に各種おはなし会を行い、読み聞かせや紙芝居などによって絵本やお話の楽しさを伝える。 その他、工作教室やぬいぐるみおとまり会など、図書館に身近に感じ、親しんでもらえる行事を行った。	赤ちゃん向けのおはなし会は特に好評で、申込が定員を超えると、別時間に同内容のおはなし会を行い、参加者を継続的に増やすことができた。 ぬいぐるみおとまり会はコロナ禍で中止していたため、3年ぶりの開催となった。大変好評で、お手紙をくれた参加者もいた。	「にちようおはようおはなし会」は5歳以上を対象としているが、参加者が年齢に達していなくても参加させているため、低年齢化が進んでいる。また、コロナ禍で減ってしまった利用者(特に小中学生)を増やすような事業を工夫する必要がある。	
高階	としょかん福袋	12月22日から24日までの3日間、一般向け18袋、児童向け39袋、計57袋・171冊を、袋詰めして貸し出した。	3日間ですべて貸し出しとなり、参加者は57名。 例年人気のある企画で、所属職員全員が参加してそれぞれ工夫を凝らした本選びを行っている。	所蔵資料に依存する企画なので、魅力的な蔵書構成と資料についての知識を深める努力を怠らないようにしたい。 また、利用者アンケートの中で「アットホームな空気感は好きだが、書棚が整理されていない」との指摘があり、蔵書管理も含めた職員の書架作業を増やす必要があると考える。	利用者アンケートでは、新刊図書に期待を寄せる意見が多かったが、座席を利用するので資料は必要ないとの意見もあった。
高階	大人のためのおはなし会	18歳以上、とくに高齢者を対象としたおはなし会。令和4年度は「空」にまつわる絵本、語りなどを中心に、職員やボランティアが実施した。	参加者15名。 高階公民館講座室にて、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を十分に行った上で実施した。	令和4年度は参加希望者が多く申し込みを断った利用者も多かったため、今年度は参加定員を新型コロナ対応以前の状態に近づけることができるように工夫したい。	